異端

十夜　萌永

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
異端

【Ｎコード】
Ｎ０２１８Ｍ

【作者名】
十夜　萌永

【あらすじ】
普通の刑事の彼。
普通の彼の前に現れた少女。
彼の普通が崩れた。

異端

朝。
カーテンを開ける。テレビを付ける。当たり前な朝。

その空間に住む彼の名前は言わなくても良いだろう。そう彼はどこにでもいる普通の人間だ。彼は刑事だ。テレビドラマの脇役にも出れないほど目立たない。だからだいたい雑用は彼の仕事だった。

その日もそうだった。同僚が困った顔をして彼の方にやってきた。
「なぁ、最近児童の転落死亡事故多いだろ？」
「ああ。」
最近、掃除中に児童が転落死亡事故が多発している。しかも全員、死亡。同じような多すぎて話の話題によくあがる。
「あれは事故じゃないと言う子がいるんだ……」
彼も一度手が足りなくて、現場に行ったがどこから見ても事故だ。
「一応話聞いて置いてくれないか？ほら窓口にいるからさっ。」
「えっ？おいっ！」
同僚は面倒くさいことを彼に任して逃げてしまった。窓口に向かう途中に、同僚が彼女と今日デートだと自慢してたのを思いだした。はめられたと気づいた時には同僚は消えていた。
窓口には中学生らしい少女がいた。普通に可愛らしい子だ。
「えーとっ君？転落事故だよ？あれは。」
相手は彼を睨みつけながらこう言った。
「大人と同じ扱いにしてください。それにあれは事故じゃありません。」

彼は少しムッとして
「じゃあ君が背中を押したんですか？」
とやけ気味に聞いた。
「そうですね。背中を押しましたね。直接ではないですけど。」
少女は嬉しそうに笑いながら言った。

――狂ってる。

「現場には何もなかった……。」
彼は自分を落ち着けるためと、確認するように呟いた。
「まさか、こっちだって一言で死ぬとは思いませんでしたよ。」
肩をすくめながら言った。
少女には不釣り合いだった。
「だって、あの子たち私をバカにしたから言っただけなんです。」
勝ち誇った顔をして彼女はこう言った。
「魔女の恰好をして飛び降りてごらん。誰でも空を飛べるから。
だけど見つかったら火炙りにされるのよ――って。」
刹那。彼は少女が言った意味分かってしまった。
「普通」の彼でも分かる普通のこと。

なぜ児童が清掃中に転落したか？
箒を持っていたから。

なぜ全員死亡なのか？

人に見えない高い所でやらないといけない。

なぜ全員児童なのか？

子供しか信じない。

「普通」の彼にはまった「異端」のピース。
「異端」の名前は「完璧犯罪」
「完璧犯罪」の「犯罪者」は犯罪を犯罪と認識してない「少女」だった。

―ＥＮＤ―

（後書き）

学校では好評でした…。
うーん、微妙だなぁ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0218m/

異端

2011年1月16日08時03分発行